

運輸安全委員会ダイジェスト

JTSB (Japan Transport Safety Board) DIGESTS

第34号 (令和2年 (2020) 11月発行)

航空事故分析集

VFR※機の雲中飛行等に関する事故

1. はじめに	1
2. 雲中飛行等事故の発生状況	2
3. 雲中飛行等事故の背景	6
4. 操縦士の心理的背景	11
5. 事故調査事例	12
6. 米国における取り組み	19
7. まとめ	20

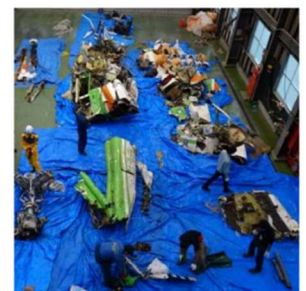
1. はじめに

ひとたび発生すると、大きな人的被害に直結する可能性！
76%が死亡事故、搭乗者の71%が死亡

有視界飛行方式 (Visual Flight Rules: 以下「VFR」という。) で飛行するには、有視界気象状態 (Visual Meteorological Conditions: 以下「VMC」という。) であることが必要です。一方で、VFR機の雲中飛行等による視程不良に関係する事故 (以下「雲中飛行等事故」と言う。) がこれまで多数発生しています。このため、今回のダイジェストでは、このような事故の内容や特徴を振り返ることにより、事故防止・被害軽減について考察を深めます。

表1 VFR機の雲中飛行等事故の発生状況 (直近10件。死亡者数・行方不明者数は、事故調査報告書による)

発生日	都道府県	型式	事故の種類	死亡(不明)者数 /搭乗者数
平成30年 8月 10日	群馬県	ベル式412EP型	山の斜面への衝突	9/9
平成30年 6月 3日	富山県	セスナ172P型	山頂付近への衝突	4/4
平成27年11月 22日	群馬県	ロビンソン式R22Beta型	山の斜面への衝突	2/2
平成26年 3月 5日	愛知県	セスナ式172Mラム型	送電線鉄塔への衝突	2/2
平成23年 7月 28日	北海道	ビーチクラフト式A36型	山腹への衝突	3/4
平成23年 7月 26日	静岡県	エクストラ式EA300/200型	海上への墜落	(1)/1
平成23年 1月 3日	熊本県	パイパー式PA-46-350P型	山腹への衝突	2/2
平成22年 7月 28日	北海道	セスナ式TU206G型	山の尾根への衝突	2/2
平成21年 7月 20日	兵庫県	ロビンソン式R44II型	墜落	2/2
平成20年 7月 6日	青森県	アエロスバシアル式AS350B型	墜落	2(2)/4



現場から回収された事故機 (事故調査報告書より)

※VFR (Visual Flight Rules : 有視界飛行方式)

: 計器飛行方式による飛行以外の飛行をいう。VFRはパイロットが目視によって地表、地上の障害物、空中の他の航空機、雲などとの間に間隔を保ちながら航空機を操縦する飛行方式であり、それらとの衝突の回避については常にパイロット自身が責任を負わねばならない。VFRによる飛行は離着陸および飛行中とも常に気象条件に制約を受け、定められた有視界気象状態のもとでのみ飛行が可能である。(国土交通省航空局監修 AIM-J Effective for 2020 July1~December31 より)